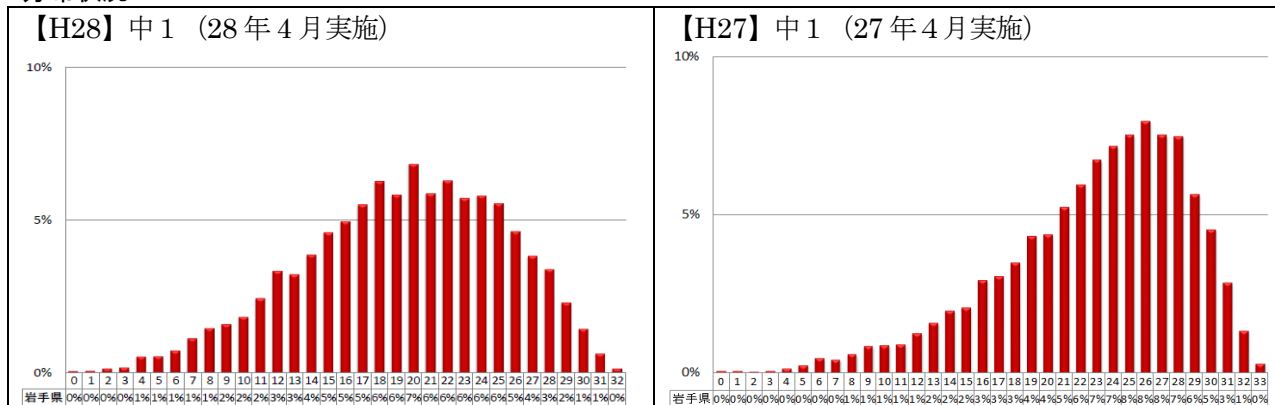


授業改善の手引 中学校第 1 学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数は、昨年度より 1 問少なく、正答数の最頻値は 20 問、平均正答数は 19 問です。昨年度と比較すると、分布の山が左に移動しています。正答数 16 問以下の児童数が 31 パーセントと、昨年度より 16 ポイント多くなっています。

(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領 域 等	正答率		
	() は H27 新入生学調、() は H26 県学調		
話すこと・聞くこと (6 問)	74%	(69%)	(59%)
書くこと (3 問)	47%	(56%)	(38%)
読むこと (10 問)	51%	(66%)	(46%)
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (3 問)	65%	(75%)	(67%)
活用 (2 問)	43%	(50%)	(30%)

(3) 結果概要

- 領域ごとの正答率において、「話すこと・聞くこと」が 74%と昨年度を 5 ポイント上回りました。特に、小問ごとの正答率において、「話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く」問題が 83% (+30 ポイント)、「話し合いにおける司会の役割がわかる」問題が 82% (+47 ポイント) で、よい状況にあります。
- これまでも課題であった「読むこと」領域の「必要に応じて、文章の内容を要約する」問題において、正答率が 59%と昨年度を 21 ポイント上回り、改善傾向にあります。
- 領域ごとの正答率において、「書くこと」が 47% (-9 ポイント)、「読むこと」が 51% (-15 ポイント)、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が 65%と (-10 ポイント) と、昨年度を下回る結果となりました。特に、文学的文章の正答率の低さが目立ちました。
- 「書くこと」領域の正答率において、活用問題 (2 問) が 43%と昨年度を 7 ポイント下回りました。また、無解答率が 20%以上と昨年度の 2 倍を上回ったことから、表現様式や条件に応じた文章を書くことについて、引き続き指導の工夫が必要な状況にあります。

(4) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選 択 No. (%)						
大問	中問	小問	進し番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	1	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことができる。	5・6年「話・聞」(1)エ	話・聞			70					29	70	1
	(2)	2	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことができる。	5・6年「話・聞」(1)エ	話・聞			83	4	83	11	2	0		0
	(3)	3	話し合いにおける司会の役割が分かっている。	5・6年「話・聞」(1)オ	話・聞			82	6	10	3	82	0		0
2	(1)	4	目的や状況に応じて質問をすることができる。	5・6年「話・聞」(1)エ	話・聞			66	8	21	4	66	0		0
	(2)	5	目的や状況に応じた質問の意図を理解している。	5・6年「話・聞」(1)エ	話・聞			72	13	3	72	11	0		0
	(3)	6	目的や意図に応じて話すことができる。	5・6年「話・聞」(1)イ	話・聞			68	15	68	11	6	0		0
3	(1)	①	7	第6学年配当漢字「至急」を正しく読むことができる。	5・6年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		93					5	93	2
		②	8	第5学年配当漢字「退ける」を正しく読むことができる。	5・6年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		54					38	54	7
	(2)	①	9	第6学年配当漢字「推測」を正しく書くことができる。	5・6年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		44					40	44	16
		②	10	第6学年配当漢字「刻む」を正しく書くことができる。	5・6年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		79					11	79	9
	(3)		11	日常使われる敬語を正しく使うことができる。	5・6年「伝国」(1)イ(ク)	伝国		65					32	65	3
	(4)		12	ローマ字で表記されたものを読むことができる。	3・4年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		72	72	3	7	15	2		1
	(5)	ア	13	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べることができる。(漢字辞典、部首・画数)	3・4年「伝国」(1)イ(カ)	伝国		77					15	77	8
		イ	14	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べることができる。(漢字辞典、部首・画数)	3・4年「伝国」(1)イ(カ)	伝国		73					23	73	4
	(6)		15	和語・漢語・外来語の区別について理解している。	5・6年「伝国」(1)イ(エ)	伝国		79					16	79	5
	(7)		16	熟語の構成を意味との関わりから理解している。	3・4年「伝国」(1)イ(オ)	伝国		52	9	22	16	52	1		1
(8)		17	文の構成について理解している。(修飾語)	5・6年「伝国」(1)イ(キ)	伝国		49	8	39	49	2	0		0	
(9)		18	故事成語の意味や使い方を理解している。	3・4年「伝国」(1)ア(イ)	伝国		70	70	8	10	12	0		1	
(10)		19	文脈に沿って、漢字を適切に使うことができる。	5・6年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		39					39	39	22	
4	(1)		20	場面の移り変わりを読むことができる。	3・4年「読」(1)ウ	読		28	30	32	28	8	1		1
	(2)		21	登場人物の気持ちを読むことができる。	5・6年「読」(1)エ	読		37					43	37	19
	(3)		22	登場人物の気持ちを読むことができる。	5・6年「読」(1)エ	読		47	47	12	18	21	0		1
	(4)		23	場面の描写と登場人物の様子を読むことができる。	5・6年「読」(1)エ	読		50					39	50	11
	(5)		24	登場人物の気持ちの変化を読むことができる。	3・4年「読」(1)エ	読		69	69	11	11	6	1		2
5	(1)		25	文章の内容を的確に押さえて読むことができる。	5・6年「読」(1)ウ	読		59					33	59	7
	(2)		26	文章の内容を的確に押さえて読むことができる。	5・6年「読」(1)ウ	読		72	8	72	14	1	2		2
	(3)		27	必要に応じて、文章の内容を要約することができる。	3・4年「読」(1)エ	読		59					32	59	9
	(4)		28	文章の要旨をとらえて読むことができる。	5・6年「読」(1)エ	読		48	13	27	48	9	0		3
	(5)		29	文章の構成をとらえて読むことができる。	5・6年「読」(1)ウ	読		43	13	9	29	43	0		5
6			30	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書くことができる。	3・4年「書」(1)イ	書		55					25	55	20
			31	表やグラフから読み取ったことをまとめて書くことができる。	5・6年「書」(1)ウ	書		43					35	43	22
			32	文章の構成に注意して意見を書くことができる。	5・6年「書」(1)ウ	書		43					31	43	27
全体正答率								61							

2 指導のポイント

- (1) 説明的な文章の特徴を踏まえて内容を把握しながら、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする学習を行いましょ。

ア 問題の概要

5	(4) 文章の要旨をとらえて読む。 第5・6学年「読」ウ	正答率 48%
---	------------------------------	---------

イ 誤答分析

誤答で最も多いのは、選択肢2の27%で、文章中の「美しい仕事道」と「綱渡りのような仕事道」とを結び付けて、共通する内容をとらえたものでした。また、その他の誤答からも、文章中の叙述と選択肢の一部分の言葉が共通するという点だけで安易に選択している傾向が見られました。

ここでは、文章の全体の内容や構成を的確に押さえながら、取り上げられている内容の中心や、書き手の考えの中心となる事柄を要旨としてとらえることが求められます。

文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成や巧みな叙述に注意するなど、文章全体から内容を的確に押さえる力に課題があることが考えられます。

ウ 指導上の留意点

(7) 小学校では、第5学年及び第6学年の指導事項ウにかかわって、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえる学習を行っています。このことは、中学校第1学年「読むこと」の指導事項イ「文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。」につながります。

(4) 指導に当たっては、論の展開の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分とが組み合わされていたり、事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されていたりするなどといった説明的な文章の特徴を踏まえて読むことによって、内容を把握することが大切です。

同時に、要約したり要旨をとらえたりする活動においては、大まかに内容をつかんだり、人に紹介したりするなどの目的や必要感を生徒にもたせることが重要です。目的や必要に応じて、情報を選択し整理するような言語活動を、単元の中に意図的に位置付けていきましょう。

- (2) 表現上の工夫を大切にしながら、自分の考えの根拠を明確にして書く学習を大切にしましょ。

ア 問題の概要

6	条件② 表やグラフから読み取ったことをまとめて書く。 第5・6学年「読」エ	正答率 43%
	条件③ 文章の構成に注意して意見を書く。 第5・6学年「読」ウ	正答率 43%

イ 誤答分析

誤答率は、条件②が35%、条件③は31%でした。誤答の多くは、条件②「読み取ったことを表現できないもの」、条件③「読み取ったことを踏まえていないもの」「自分の考えそのものが条件に合っていないもの」でした。

また、無解答率は、条件②が22%、条件③は27%と、昨年度の2倍を上回る結果となりました。この問題では、資料から読み取った情報や自分の考えについて適切な言葉を用いて記述する力や、資料から必要な情報を取り出し、比較したり関係付けたりしながら自分の考えを明確にすることが求められます。

資料から取り出した情報の書き表し方の理解や、図表やグラフを用いて自分の考えを書く経験が不足していることが考えられます。

ウ 指導上の留意点

(7) 小学校では、第5学年及び第6学年の指導事項ウ・エにかかわって、事実と感想、意見などを区別して書く学習や図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書く学習を行っています。このことは、中学校第1学年「書くこと」の指導事項ウ「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。」につながります。

(4) 図表やグラフを用いて自分の考えを書く際の指導に当たって、常に自分の伝えたいことに立ち返らせることで、目的意識をもち続けることができるようにすることが大切です。例えば、用いた図表やグラフが自分の考えを明確に伝えるための根拠となっているかどうか、その内容が適切かどうかを検討する場を設定することも必要です。その上で、第1学年では書こうとする事柄のまとまりや順序を明確にし、段落の役割を踏まえた文章の構成を考える指導が効果的です。

また、表現上の工夫として、必要な数値（「〇%以上」等）や概略を示す言葉（「おおよそ」等）、比較を示す言葉（「上回る・下回る」等）を使用するなど、読み取った情報を相手に分かりやすく伝えるための言葉を選択させるような指導も大切にしましょう。

(3) 場面の展開や登場人物などの描写に視点を定めながら注意して読み、人物の心情を表現の仕方と結び付けながらとらえる学習活動を充実させましょう。

ア 問題の概要

4 (2) 登場人物の気持ちを読む。

第5・6学年「読」ウ

正答率 37%

イ 誤答分析

誤答率は43%、無解答率は19%でした。誤答を分析すると、「落ちこんじゃいなかった」兄の心情を、主人公（比呂）の心情からとらえたり、線部（引用文）近くの兄の会話文から15字に満たない言葉や文で解答したりする傾向が多く見られました。

この問題は、登場人物相互の関係に基づいた会話を通して、内面にある深い心情をとらえることが求められます。

文章全体の中で人物の相互関係から心情をとらえ、その根拠となる叙述に着目しながら読む力に課題があることが考えられます。

ウ 指導上の留意点

(7) 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえることについては、既に小学校第5学年及び第6学年（指導事項エ）で学習しています。中学校第1学年では、その学習の上に立って、時間的・空間的な場面の展開、人物の心情や行動、情景描写などに注意して読み、内容の理解に役立てる学習につながります。

(4) 文学的な文章を解釈する際は、言葉を手がかりにしながら、視点を定めて読む必要があります。登場人物の見方や考え方が表れている場面の描写と、登場人物の会話や行動を重ね、より深く場面の様子をとらえて読む力を身に付けることができる言語活動の設定が大切です。

また、登場人物の言動の意味や情景描写による暗示的な表現を、登場人物それぞれの立場になって考えることも、作品を味わうための内容の理解に役立ちます。

指導に当たっては、主体的な言語活動を通して、生徒自身がこれらの力を習得し活用できるよう、次頁のような単元構想や学習活動を参考に、学習指導を工夫していきましょう。

「C 読むこと」の指導事項を言語活動例を通して指導する場合の評価規準例
 「描写の効果や登場人物の言動の意味を考え、自分の解釈に生かしている。」

《単元構想例》

1次	<p>【第1時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リライトの概略を知り、興味をもつ。 ・学習のねらい「物語の登場人物の相互関係を基に、主人公の心情を探る力を付けよう」を確かめ、兄の視点で読み直して主人公の心情を考えると学習の見直しをもつ。
2次	<p>【第2時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「走る少女」を読み、表現の特徴（会話の多用、語り手の位置付け、時系列の構成の工夫など）をとらえる。 ・会話や情景描写を手がかりに、兄と妹の相互関係をとらえ、主人公「比呂」の人物像や心情を理解する。 <p>【第3時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> ①兄の視点から出来事を書く。 ②兄が感じている妹の心情や兄の思いを書く。 ③原作の内容（ストーリー展開）は変えない。 ・会話や情景描写を手がかりにとらえた「兄」の人物像や心情が表れるようにリライトする。 <p>【第4時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リライトした文章について読み合い、観点に沿って交流する。 ・交流を通して深まったり広がったりした読みをリライトに生かし、作品として仕上げる。
3次	<p>【第5時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リライトして深まったり広がったりした読みを基に主人公の心情や兄とのかかわりについてとらえ直し、自分の考えをまとめる。 ・単元を振り返り、学習で身に付いたことを確認し、登場人物の相互関係をとらえて読むおもしろさを今後の読書生活に活かす学習のまとめとする。

《第4時展開例》

1	<p>学習課題を把握する。</p> <p>「兄」の心情や「兄」から見た「妹」の心情を探るために、リライトの根拠を検討しよう。</p>
2	<p>課題を解決する。</p> <p>(1) リライトの条件①②に係る記述を取り上げ、その根拠についての解説をまとめる。</p> <p>・「兄」の人物像や心情 } 読みの根拠となる叙述と解釈 ・「兄」から見た「妹」の心情 } ・兄の視点による表現の仕方の工夫</p> <p>(2) グループで解説を交流し、互いの読みの根拠について話し合う。【交流Ⅰ】</p> <p>・人物像のとらえはよいか。 ・心情のとらえや様子の想像は妥当か。 ・人物像や心情を表す表現は適切か。</p> <p>(3) 各グループで話題になった点を全体で共有し話し合う。【交流Ⅱ】</p> <p>・グループ内での解釈の違い ・グループ内で深まった心情のとらえ ・共有したい表現</p>
3	<p>学習のまとめをする。</p> <p>(1) 交流Ⅰ、Ⅱを通して考えた「兄」の言動の意味や、情景描写による暗示的な表現について確認する。</p> <p>(2) 交流Ⅰ、Ⅱを踏まえ、自分のリライト作品を仕上げる。</p>
4	<p>学習を振り返り、次時の課題を確認する。</p>

《第4時 交流場面》

I. グループ交流

自分のことで悩んでいる妹を、前向きな気持ちにさせようとしている兄の優しさが、うまく伝わる表現になっているかな？

でも「人生最大のピンチだった」と思っているみたいだし、やはり心の中では、妹のことを責めているのでは？

「最大のピンチ」は妹の心情が表れている叙述だったね。兄は「重荷だった」と言っているから…。

言葉や行動を関連させて考えるといいんだね。

「重荷」はどう解釈したらよいかなあ…。

II. 全体交流

私たちのグループでは、「走ることがいつか重荷になりそうな予感が」という会話から、兄は「今も悩んでいる」と「気にしていない」と解釈が分かれたのですが、みなさんはどう思いますか？

兄の言葉をたどると、落ち込んでいないことが分かります。シューズを贈った行為にも、それが表れていますよね。